

**【学習プログラムを開発しよう!】 (留意点等)**

( B ) グループ

1 課題

- 男女で興味のあるものが異なる。
- 大人数で行動すると、興味を持たない子が出てくる。
- 最近ではコミュニケーションがうまくとれない子が多いため、はじめの入口が重要。
- 子どもたちが自発的に動けるようなプログラム作成が必要。
- “体験”は一人でできてしまうことがある。
- 一人ぼっちの子をつくらないようにしなければならない。
- 地域の方を講師にすると、良い面と悪い面がある。  
(知識は深いけど、子どもが興味を持つような話し方ができるか?)

2 プログラムのねらい

地域の人とのふれあいを通して、子どもたちがふるさとを知り、ふるさとを愛する心を育てる。

3 プログラム全体の学習目標

- 参加者同士の交流を通して、連帯感を強める。
- 今まで体験したことのない体験を通して、ふるさとに興味をもつキッカケをつくる。
- 地元の人を交えた体験学習を通して、郷土愛を育てる。

4 プログラム名

冒険!探検!生口島!～ふるさとマップをつくろう～

5 対象・定員

対象:尾道市内小学校高学年 定員:30人(5人×6グループ)

6 参加費

(受益者負担を原則として、参加費を算定する。なお算出の根拠も明確にする。)

保険料(400円)、交通費(2500円)、食材費(100円)・・・一人当たり3000円

7 事前に必要な知識や準備物

海(瀬戸内の海辺に生息する動植物)、山(山野草)の知識、活動する上での安全面の知識、アンケート、必要物品の手配、医療機関の把握

8 留意点

安全面、各支援者との連携、健康面への配慮

## 9 学習プログラムの展開

展開方法:( )講義・演習型 (○)参加型 ( )参画型

回・日程	学習テーマ	各回の学習目標(○) 学習方法及び学習内容	学習支援者	学習場所
1回 7月14日 土曜日 13:00 ~ 16:00	生口島を知る	◎参加者同士のコミュニケーションを図り、 次回への学習へつなげる。  ①オリエンテーション ・アイスブレイク(30分) ・グループ分け(役職決め、自己紹介) (30分) ・支援者、参加者間の交流(90分) ・事前説明(30分) ②次回への宿題(海の生物)	生口島の 歴史文化 研究会、 ジュニア リーダー等	尾道市内公民館
2回 7月28日 土曜日 9:00 ~ 16:00	生口島にふれる ～海編～	◎生口島の海辺の環境を知り、地域独特の 食材、調理法、生活文化を学ぶ。  ①グループで宿題の生物を探索。(120分) ②漁協のタコ飯。(60分) ③再度探索。(120分) ④今日の宝の地図作成(振り返り)。 (30分) ⑤次回への宿題(里山の植物)。	生口島の 漁師さん、 ジュニア リーダー等	生口島内 (6か所)
3回 8月11日 土曜日 9:00 ~ 18:30	生口島にふれる ～山編～	◎生口島で季節の野菜、山菜を採り、ふる さとの環境、生活文化を知る。名所を知る。  ①グループで宿題の植物を各所で探索。 食材採取。(120分) ②食材調達(畑からの収穫)。(90分) ③調理。(120分) ④今日の宝の地図作成(振り返り)。 (30分)	生口島の 農家さん、 ジュニア リーダー 等、郷土文 化研究会	生口島内 (6か所)
4回 8月26日 日曜日 13:00 ~ 16:00	生口島を伝える	◎グループ同士の合同地図作りからコミュ ニケーション能力を養い。各回を通して学 習したふるさとの宝物(良いところ)を他者 (支援者)へ伝えられるようになる。  ①2、3回目に作成した地図を参考に大 きな宝の地図を作成。(120分) ②地図発表(60分) ③アンケート調査 その後・・・観光マップとしてネットにアップ	生口島の 協力者、 ジュニア リーダー等	生口島公民館

## 10 評価方法

事前アンケートと事後アンケートを取ることで、ふるさとのとらえ方等についての違いを評価する。